

事業創造事例集のご案内



2018年10月 システム企画研修株式会社

この事例集は

「どんな技術シーズを使って」
 「どんな新ビジネスまたは新ビジネスモデルが考えられているのか」
 を知ることによって、

デジタル・トランスフォーメーション(DX)を考えるヒントとする
 ためのものです。



したがって、事例の発生時点やその事業が成功したか否かは問題としていません。

他社事例の内容自体を真似するためのものでもありません。
 他社の事例を参考にして、「それは自社だとどうなるのだろうか」
 と考えていただくためのものです。

たとえば「**対象事業**」を分類していますが、
 それは「**どういう用途に適用したか**」の参考情報です。
 その事例を踏襲しようということではありませんから、
対象事業は無視し、適用のアプローチを参考にして異なる事業に適用しよう
 と考えていただいてよいのです。

事業創造事例集 一部

GPS利用の場合

#	案件名	実施主体	事業創造パターン		対象事業	利用者		対象プロセス										適用技術										事例分類番号	内容					
			新ビジネス	新ビジネスモデル		法人	個人	企画管理	現状把握	判断	処置	情報提供	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5			6	7	8	9	10
													センサ、M2M、	GPS	ウェアラブル端末	無線技術	ロボット	スマホ	インターネット	ビッグデータ	AI													
1	機械稼働管理システム KOMTRAX	小松製作所		○	建設・工事	○				○	○	○	○	○																		63	建設機械にセンサーを組み込み、保守サービスを高度化	
2	無人ダンプトラック運行システム	小松製作所		○	建設・工事	○				○	○	○	○																			68	大規模鉱山で利用	
49	ぜん息患者向けシステム	米アズマボリス	○		介護医療		○			○	○	○	○																			62	GPSを内蔵した小さなキャップのような装置をぜん息患者が携帯する吸入器に取り付け、どこでぜん息発作が起きるかを把握分析する。その場所を避けるようにする。	
50	認知症患者フォロシステム(屋外)	米ベガ・エバロン	○		介護医療		○			○	○	○	○																			63	「安全区域」を設定し、認知症患者が1人で自由に歩き回れるようにする。外に出ると警報が通知される。	
62	痴漢を防ぐブラ	インド	○		生活		○				○	○	○																			65	携帯電話ネットワークを通じて当局に通報し、GPSが正確な位置を知らせる。	

事業創造事例集のご案内



1 当事例集の目的・ねらい (Why)

(1) 目的

DXの参考情報としていただきます。

- どんな技術シーズを使って、
 - どのような新ビジネス（これまでどこにもないビジネス）を創造しようとしているのか、
 - または新ビジネスモデル（既存ビジネスの革新方式）を創造しようとしているのか、
- を網羅的に知っていただきます。



(2) ねらい

- ❖ DXのインプット情報としていただきます。
- ❖ 新事業のアイデアを出していただきます。
- ❖ 有望な新事業を創案していただきます。



2 当事例集の内容 (What)

- ❖ 収集した事例情報を以下の項目で分類し表形式で提示しています。【表1参照】
- ❖ 合計150案件が収録されています。
- ❖ 内容がほぼ同じで、実施主体が異なるものも含まれています。

4 当事例集の利用法 (Where)

- ❖ この事例集は Excel シートなので、どういう事例を見たいかによって、表示項目を選択して該当案件を抽出することが可能です。
- ❖ 適用技術欄は、相乗りしている場合がありますので、その中のいずれかを見たい場合は、「内容」欄または添付事例説明資料でご判断ください。

5 当事例集の作成時期 (When)

- ❖ 2015年8月から適宜更新中です。

6 当事例集の作成者 (Who)

- ❖ システム企画研修㈱

7 当事例集の提供料金 (How Much)

- ❖ 単体ご提供料金：10万円（消費税別）
- ❖ 「デジタル化システム開発の標準プロセス作成支援」プログラムで利用の場合は、プログラム料金に含まれます。

3 当事例集の対象範囲 (Where)

(1) 主な出典

1) 「攻めのIT経営銘柄」	<ul style="list-style-type: none"> • 2015年5月～毎年選定 • 経済産業省ホームページ
2) 日本経済新聞	<ul style="list-style-type: none"> • 2013年2月～現在
3) 「コンテクストの時代」	<ul style="list-style-type: none"> • ロバート・スコープル/シェル・イスラエル著 • 2014年（訳本は2014年9月）出版 • 当書ではコンテクスト（前後の事情、背景）が重要な変革を社会にもたらすという主張をしていますが、その技術として以下の5つを挙げています。 <ul style="list-style-type: none"> • モバイル • ソーシャルメディア • ビッグデータ • センサー • 位置情報 • 当書の出版は4年前ですが、未だに新情報としての有効性を持っています。
4) 「ITロードマップ」	<ul style="list-style-type: none"> • 野村総合研究所編著
5) インターネット情報	<ul style="list-style-type: none"> • 一部の情報を参照

(2) 収録事例

1) 新ビジネスモデル創造事例	<ul style="list-style-type: none"> • 新技術を利用して従来の自分達のビジネスの実施方法を革新する事例
2) 新ビジネス創造事例	<ul style="list-style-type: none"> • 新技術を活用して新しいビジネスを創造する事例 • そのビジネスが独立した自立事業となっているかどうかは不問

(3) 対象としたDXの利用技術

- ❖ この事例集で対象とした技術は【表1】の適用技術です。
- ❖ 技術自体の解説は当事例集内で示しています。
- ❖ これらの技術の実用的利用可能時期・普及期等については、「ITロードマップ2018」（野村総合研究所著）を参考にされるとよいでしょう。



表1 事業創造事例集の表示項目

▶ この資料の利用目的からして、各案件の該当表示項目は必ずしも厳密・正確ではない可能性があります。

表示大項目	表示項目	内容
案件名		<ul style="list-style-type: none"> 正式な案件名がない場合は適当に表示した。
実施主体		<ul style="list-style-type: none"> 法人、研究機関、大学など、その案件の実施者を示す。
事業創造パターン	新ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> 新しいビジネスを創造している場合を示す（予定を含む）。
	新ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> 既存のビジネスの新しい展開方法を創造している場合を示す。
対象事業	建設・工事	<ul style="list-style-type: none"> 建設事業または各種工事を示す。
	製造	<ul style="list-style-type: none"> 各種製造を示す。製造現場の改善に限定しない。
	流通販売	<ul style="list-style-type: none"> 流通または販売を示す。
	サービス	<ul style="list-style-type: none"> 各種サービス提供を示す。
	金融	<ul style="list-style-type: none"> 金融サービスを示す。
	公共	<ul style="list-style-type: none"> 公共事業を示す。
	生活遊び	<ul style="list-style-type: none"> 個人の生活の改善領域または遊び・楽しみ提供の領域を示す。
	健康	<ul style="list-style-type: none"> 個人の健康管理または健康増進領域を示す。
	介護医療	<ul style="list-style-type: none"> 介護または医療の領域を示す。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 各種 I C T 活用ビジネスのインフラ提供などの領域を示す。 	
利用者	法人	<ul style="list-style-type: none"> 当該システムの利用者が法人であることを示す。
	個人	<ul style="list-style-type: none"> 当該システムの最終利用者が個人であることを示す。
対象プロセス	企画管理	<ul style="list-style-type: none"> 改革対象の機能が企画・計画または管理・コントロールのプロセスであることを示す。
	現状把握	<ul style="list-style-type: none"> 改革対象の機能が現状を把握するプロセスであることを示す。
	判断	<ul style="list-style-type: none"> 改革対象の機能が与えられたデータに基づき判断するプロセスであることを示す。
	処置	<ul style="list-style-type: none"> 改革対象の機能が判断に基づき何らかの処置を行うプロセスであることを示す。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 改革対象の機能がその他のプロセスであることを示す。
適用技術 対象案件がどの技術を使用しているかは一部推定を含む。 適用技術の解説は「3. 当事例集の対象範囲（3）対象として認識した新技術」参照	センサ、M2M、I o T	<ul style="list-style-type: none"> センサおよびセンサによって得た情報を自動的に他に転送する技術を示す。
	G P S	<ul style="list-style-type: none"> G P S 技術を使用しているものを示す。
	ウェアラブル端末	<ul style="list-style-type: none"> ウェアラブルの形態をとっているものを示す。
	無線技術	<ul style="list-style-type: none"> 無線技術を使用しているものを示す。
	ロボット	<ul style="list-style-type: none"> 自動処理機能を持つ機器を含む。
	モバイル（スマホ、タブレット）	<ul style="list-style-type: none"> タブレットもモバイル特性を持つものであり、同一欄で示した。
	S N S	<ul style="list-style-type: none"> S N S 機能を活用するものを示す
	ビッグデータ	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ分析手法によらないデータ分析を行っている場合も同一欄で示した。
	A I	<ul style="list-style-type: none"> A I 機能のランクは不問。
事例分類		<ul style="list-style-type: none"> 事例を表2のように分類しています。
内容		<ul style="list-style-type: none"> 事例の内容を簡潔に紹介している。 原則として、詳細紹介資料を添付している。



表2 対象とした事業創造事例の分類 DXにはこれだけのパターンがあるのです。全部で40分類。一部分を以下に表示

C. AIシステム・DX処理

#	入力	処理	出力
21	センサ、知識ベース	状況判断	メッセージ（診断）
23	センサ（家電）、知識ベース	状況判断	メッセージ
24	センサ、知識ベース	状況判断	アクション（ロボット）
25	センサ、知識ベース	画像認識	メッセージ
26	センサ、知識ベース	画像認識	ドキュメント
27	センサ、知識ベース	画像認識	アクション（ロボット）
28	センサ、GPS、知識ベース	画像認識	アクション（ドローン）
31	センサ（ウェアラブル） 知識ベース	状況判断	メッセージ（診断）
35	スマートグラス 知識ベース	QRコード読み取り	対象内容表示
36	スマートグラス 知識ベース	周囲読み取り	関連情報表示
41	入力データ（個別データ） 知識ベース 個人データ知識ベース	状況判断	メッセージ（診断）
42	SNS（個別データ） 知識ベース 個人データ知識ベース	状況判断	メッセージ（推薦）

D. 非AIシステム・DX処理

非AIの事例が現実にはかなり多くあります！！

#	入力	処理	出力
51	既存データ	条件選択	自動処理（配信）
52	既存データ	共有化	データ共有
53	設計データ	連携	自動処理（3Dマシン）
54	スマホ・タブレット（現場配置） 既存データ	検索	情報共有
55	スマホ・タブレット・PC 一元化既存データ	検索	一元管理
56	スマホ	QRコード読み取り	自動処理（注文・決済）
57	スマホ	画像読み取り	自動処理（注文・決済）
60	スマホ	位置特定	メッセージ（販促、案内）
62	センサ（スマートウェア、錠剤）	状況把握	メッセージ

お問い合わせ システム企画研修(株)

電話：03-5695-3130 mind-pc@newspt.co.jp <http://www.newspt.co.jp>

